

## 令和5年3月 経営協議会（対面・オンライン併用）議事録

I. 日 時 令和5年3月16日（木） 15時00分～17時16分

II 場 所 ホテルニューオータニ幕張 鶴の間

III. 出席者 中山学長、岩田、香藤、草開、黒木、塩尻、島田、銭谷、西堀、萩原、  
船橋、正宗、宮坂、  
中谷、藤江、金原、手島、堀、岩崎、小澤、佐藤（之）、松原、横手、  
諏訪各委員

がざー 角倉監事  
(欠席者：犬養、河田、渡邊各委員)

※下線はオンライン出席者

IV. 前回議事録について  
原案のとおり承認された。

V. 審議事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 令和5年度学内予算編成方針（案）及び学内予算編成（案）について  
手島理事から、令和5年度学内予算編成方針（案）及び学内予算編成（案）につ  
いて、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。  
主な意見は以下のとおり。

◎ 人件費について、多くの民間企業が賃上げ要求に満額回答している。国立大学法人  
と民間企業の差がさらに広がると考えられるが、今後どのように対応していくのか。

○ 来年度、民間企業に合わせて給与等を大きく引き上げる人事院勧告が出ることが予  
想されるが、それに応じて運営費交付金が増えるわけではないので、様々な部分を犠  
牲にしながら人件費のベースアップに充てていかなければならない。国立大学法人に  
とって、限られた予算でどうやって人事院勧告に沿って人件費を上げるかというこ  
とは、大きな課題である。

◎ 日本の労働分配率は極端に低くなっており、その修正が今後始まると思う。その中  
で、優秀な研究者等の獲得競争が始まるという認識を持っておいた方がよい。千葉大  
学だけで対処できる話ではないと思うが、様々な方法を考えていただきたい。

○ 財務省としては、研究費として大きな予算額を確保しているという論理であり、教  
育にしわ寄せがあることが予想される。高等教育機関として、守らなければならない  
人件費が削減されることがないように考えて行動していきたい。

2. 全学規程等の制定改廃について

中谷理事から、全学規程等の制定改廃について、資料に基づき説明があり、審議  
の結果、承認された。

3. 国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正等について

手島理事から、国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正等について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

4. 情報・データサイエンス学部及び学府の設置について

佐藤（之）副学長から、情報・データサイエンス学部及び学府の設置について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 企業においては、ビッグデータを使って新商品の開発や経営戦略の立案ができるような人材を確保したいというニーズが高いが、企業等からの社会人の受け入れについてはどのような形になるのか。
- 広い範囲での学び直しやリスキリングの需要もあると思っており、博士前期課程を作り込むときに、そのような方々を受け入れるような仕掛けを作る必要があるかもしれない。また、ある程度まとまった内容を学び学位を取るというよりは、もう少し軽めの内容を用意するということも含めて検討したいと考えている。令和6年度に学部・学府がスタートしてから、リスキリングについては徐々にスタートしていくということで、二段構えの構想を考えている。
- ◎ データサイエンスを身に付けるだけではなく、社会において展開していける人材を育成するために、例えば、法政経学部と協力し経営大学院を展開するようなビジョンはあるか。
- 法政経学部等、様々な分野と関連した科目群を設定することもできるし、その学生とコラボレーションしながら学ばせるということも可能であり、ぜひそうしたいと考えている。
- ◎ 企業との繋がりを作っていくために、学生のインターンシップ等、相互のインタラクションを構築していくようなパイプラインを作れば、その企業から研究費をもらう等の効果もあると思うがどうか。
- 実践的な教育をするためには、産業界との協力が非常に重要であり、特にプロジェクト型の科目の支援を企業にお願いしたいと思っている。今後、科目をどう運用するかという議論をしていくが、そういったことも視野に入れながら作り込んでいきたい。
- ◎ データサイエンスのスキルの習得だけではなく、データサイエンスにより様々な社会の課題を解決していくためには、学生に問題意識がないと難しいと思う。社会に対する問題意識をどのように持つかということも、教育の中に盛り込むとよいと思う。
- 課題発見力と課題解決力を強化できるように授業の中身を作りこむ際、考慮したい。
- 課題解決型人材の育成については、他学部も同様である。イシューベースの教育に向けて改革を進める中で、今後の展望はあるか。
- 現在進んでいる知識集約のプロジェクトでは、課題解決型人材を1つの学部だけではなく、大学全体として育成していくという取り組みに発展させていくことが求めら

れている。イシューベースの教育については、全国のいくつかの大学で知識集約のプロジェクトを組んでいるが、千葉大学はそこでモデル展開を考えており、そのスキームの中に新学部も組み込み、大学全体として様々な仕掛けを作っていきたいと考えている。

- ◎ データサイエンスは社会の基盤になっており、非常に重要なテーマであると同時に、あくまで1つのツールであるという側面もある。データサイエンスの深堀りだけをしてその部分でのエキスパートになれても、社会で活躍するには十分ではない。問題意識を持ってデータサイエンスを勉強しなければならないと思うので、授業の中で実装することが必要である。
- 学部を卒業したら即戦力となる完璧な人材ができていくわけではなく、企業等でスキルを磨くことも必要ということを見ると、大学ではリカレント教育等の要望に応える枠組みを作っていくことも必要だと思う。今後は、大学では最初の取っ掛かりを身に付け、その後、大学は企業や社会と一緒に人材を育成していく方向に進むというイメージを持っている。
- データサイエンスの全学的な教育においては、企業との連携が非常に重要である。企業からカリキュラムのレビューをしてもらったり、様々なデータを使わせてもらうという企画も進めており、新学部が発足したら、新学部を中心として企業連携を積極的に進めていきたいと考えている。
- ◎ 観光、エンターテインメント、環境等、日本が抱えている社会課題に対して、データを多く持っている企業が千葉県内には数多くある。そのような企業との連携を優先して考えると、千葉大学としてのアイデンティティが確立すると思う。

## VI. 協議事項（◎学外委員、○学内委員）

### 1. インフラ長寿命化計画について

中谷理事から、インフラ長寿命化計画について、資料に基づき説明があり、意見交換が行われた。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 大学として毎年10億円を捻出しなければならないということか。
- そうである。ただ、第4期中期計画期間はこの金額で対応すれば、法令に違反している状況ではなくなるということである。情報・データサイエンス学部及び学府設置の件で女子学生増加の話をしたが、トイレの整備等の対応についてはしっかり行っていかなければならないため、工夫しなければならない状況である。私立大学であれば、銀行から資金を借りることができるが、国立大学法人ではそれができない。現実的には、使わない建物を決める等、対応を考えていかなければならない。
- ◎ 単年度予算で考えていたら難しいのではないか。基金のように、大学自ら少しずつ資金を積み立てていく必要があるのではないか。
- 病院については自ら資金を借り入れ、積み立てができるように会計基準が変わった。しかし、学校施設については、施設整備費補助金により国がきちんと整備するという文部科学省の考え方があるため、現状では積立金制度ができていない。

## VII. 報告事項（◎学外委員、○学内委員）

### 1. 令和5年度執行部体制及び部局長等の選考について

中山学長から、令和5年度執行部体制及び部局長等の選考について、資料に基づき報告があった。

### 2. 医学部附属病院の運営状況について

横手副学長から、医学部附属病院における新型コロナウイルス感染症への対応状況、2022年度収支見込、4月から2月の稼働状況及びその他の運営状況について、資料に基づき報告があった。

◎ レンガの庭のような、人々が集まり食事や雑談をする場を他のキャンパスにも作ってほしい。

### 3. 新型コロナウイルスへの対応について

中谷理事から、本学における新型コロナウイルス感染者等の状況について報告があった。続いて、小澤副学長から、現在の留学の実施状況等について報告があった。

### 4. その他

中山学長から、退任する委員の紹介の後、各委員から挨拶があり、中山学長から謝辞が述べられた。

以 上